

教科指導の改善プラン（第1学年の具体的取組）

府中第四小学校 平成30年度

		国語	算数	生活	特別の教科 道徳
第1学年	現状の課題	・ひらがなの習得や字形を整えることに課題がある児童もいる。 ・音読する際に、ひとまとまりの言葉として読むことに課題がある。 ・物語を読んで、自分なりに思いを広げて読むことに課題がある。 ・話を聞くことに課題がある。	・文章問題の問題場面をイメージできず、式に表すことに課題がある児童がいる。 ・10までの数の加法・減法では、計算する際に指やブロックを使う児童もいる。	・さまざまな体験や活動は意欲的に行う。しかし自己の気づきに結びつかない児童が多い。 ・気付いたことを言語化することに課題がある。	・読み物資料の問題場面を考える際、場面の状況把握に課題がある。 ・自分の生活を振り返ること（一般化）に課題がある。
	具体的な改善のための方策	・書写の時間を充実させ、既習のひらがなや漢字の振り返りを行う。日頃から丁寧な字を書くよう声をかける。 ・授業での音読指導はもちろん、家庭学習で毎日、音読に取り組ませる。 ・物語の世界に入り込めるよう、ワークシートを工夫したり、表現活動を積極的に取り入れたりする。 ・全体指導での教師の話をしっかり聞かせ、聞く習慣を身に付けさせる。	・問題場面の絵を描かせたり、具体物による操作活動をさせ、問題場面を捉えさせる。 ・数の分解・合成などの基礎的な力を習得させるために、具体物による操作活動を数多く行っていく。問われていることを丁寧に確認し、文章を読み取る習慣をつける。 ・10の合成と分解を繰り返しブロック等の具体物を操作しながら計算をさせる。	・活動後の表現の際、「見付ける」「比べる」「たとえる」などの視点を与え、自らの気づきを振り返ることができるようにする。観察カードの記入等で自分の気づきを意識させる。 ・気付いたことの書き方見本を提示し、気付いたことの書き方に慣れさせる。	・場面の的確な状況理解を促すために、発問を吟味する。また、板書や資料提示を分かりやすく工夫する。 ・ワークシートや最後の発問を工夫し、教材を活かして自分の生活への振り返りを行う。
		体育	音楽	図工	
	現状の課題	・体を動かすことを好む児童が多いが、経験不足から、固定施設や鉄棒、ボールの操作などに苦手意識をもっている児童がいる。 ・遊びの約束が守れなかったり、整列ができなかったりする児童がいて安全面に課題を感じる場面がある。	・鍵盤ハーモニカの「息の吹き方」「指遣い」に課題がある。 ・音楽の表現活動を積極的に行うことに抵抗感をもっている児童もいる。	・切る、はる、ぬるなどの技能の能力差がある。	
	具体的な改善のための方策	・固定遊具の活用により、体全体を使って運動する体験を増やす。ボールを使った遊びを積極的に取り入れる。 ・約束と安全を、学習のめあてや振り返りで確かめさせる。約束を守り、安全に運動に取り組んでいたのか自己評価をさせる。	・リズムを聞いたり、階名で暗唱したりすることを繰り返し練習するようにする。個別の指導を充実させる。 ・音楽に合わせて体を動かしたり、リズム遊びをしたりして、音楽的な感覚を身に付けさせるとともに、音楽活動への興味や意欲を高める。	・材料や用具の基本的な使い方の指導を繰り返し行い、十分に慣れさせる時間を確保する。また、題材の中に複数の技法を取り入れ基礎・基本の定着を図る。	

教科指導の改善プラン（第2学年の具体的取組）

府中第四小学校 平成30年度

		国語	算数	生活	特別の教科 道徳
第2学年	現状の課題	・話したい気持ちはあるが、言葉が足りなかったり、冗長になったりして相手に正しく伝えることに課題がある。 ・書く能力は、個人差が大きく、順序立てて分かりやすい文章が書くのに課題がある児童もいる。学習に対しての意欲も個人差が大きく、授業に集中できていない児童もみられる。	・計算問題は繰り上がり、繰り下がり、に課題のある児童が多い。また、文章問題の読み取りが課題で、正しく立式できないことがある。 ・時刻と時間を正確に読むことや、長さやかさの量感、単位換算に課題がある児童も多い。	・体験活動を意欲的に行うことができるが、ふり返りや自己の気づきに結びつかない児童もみられる。	・教材文を自分のこととしてとらえることが難しい児童もみられる。学習したことをすぐに日常の行動に反映させる児童も多く見られるが、授業の振り返りをみると、その時間に学習したことを捉え切れていない児童もみられる。
	具体的な改善のための方策	・話し方、聞き方のポイントを指導し、定着をはかる。漢字、音読、日記を日常的に指導し、繰り返し学習を習慣づける。	・計算をした後の見直しの習慣をつける。文章問題では、問題を3回読むことや、求答事項に下線を引いたり大事な数字を○で囲むなどの練習を積ませる。時間、長さ、かさを日常生活で活用し、算数の時間以外でもふれる機会を設ける。	・活動後、「見付ける」「比べる」「たどえる」などの視点を与える。観察においては、「大きさ・長さ・形・匂い・手触り・色」などの視点を与え、比喻などの表現も活用し、具体的に書かせる。	・ねらいをはっきりとした授業をする。また、導入での教材提示を工夫したり、役割演技やペープサートなどを取り入れ、自我関与がしやすい状況をつくる。
		体育	音楽	図工	
	現状の課題	・運動が大好きな児童が多いが、基本的な動き(コース内を真っ直ぐ走る・ボールを真っ直ぐ投げる・ブリッジ・逆上がり・前回り下り・前転・後転など)に課題がある児童もいる。	・大きな声では歌えるが、音程やリズムに気を付けて歌うことに課題がある。 ・鍵盤ハーモニカの指遣いが困難な児童が多い。特に、指くぐりや指またぎをスムーズにできていない児童が多い。	・活動に意欲的な児童が多いが、身近で扱いやすい材料や用具の基本的な扱い方を確認する必要がある。また、発想や構想の能力に課題のある児童が見られる。	
	具体的な改善のための方策	・様々な固定遊具を取り入れたサーキットや、ボールを使った運動ゲームを積極的に行う。 ・授業の準備運動の後に体慣らしの時間を常時設けて取り組む。 ・休み時間や放課後にも運動に取り組む、運動の日常化を促す。	・声の出し方や口の正しい開け方やリズム奏を繰り返し指導し、範唱や範奏をすることで、階名を正しく歌ったり演奏したりできるように練習する。 ・鍵盤の指遣いは、個別指導の時間を毎時間設けて指導する。	・感覚や技能を働かせる活動を通して、材料や用具の扱い方に十分慣れるようにする。また、活動の予告や児童の興味関心にあわせた題材設定を行うことで、発想や構想を促す。	

教科指導の改善プラン（第3学年の具体的取組）

府中第四小学校

平成30年度

		国語	社会	算数	理科	体育
第三学年	現状の課題	- 漢字を正しく書くことに課題のある児童が、6割程度いる。 - 物語文のあらすじは理解できる児童が多いが、会話から登場人物の心情をとらえたり、情景描写から様子を想像することが難しい。 - 話された内容をきちんと理解することに課題のある児童が多い。	資料から分かったことをノートに書き出したり、新聞にまとめたりする力に課題がある。	- mL・dL・cmなどの単位の変換に課題がある。 ○分前、○分後という時間を表す言葉がイメージできなかつたり、○分＝△時間□分に表せなかつたりする児童が多い。 - 計算はできても、特にあまりのあわり算の問題の意味を正確にとらえ、読み取りが苦手な児童が多く見られる。	昆虫や植物に興味をもっており、観察でも意欲的に取り組む児童が多いが、知識を問うテストになると、どう答えて良いのか分からなくなる児童がいる。	個人の運動は一人一人がよくがんばるが、グループ競技になると、得意な児童だけがプレーしてしまうことがある。また、勝ち負けに熱くなりすぎて失敗を責めてしまうことがある。
	具体的な改善のための方策	- 漢字テストが70点以下の児童には70点以上になるまで再テストを行い定着をはかる。 - 指導の仕方をパターン化させながら、とらえ方のコツをつかませるようにしていく。 今、話したことの大事なことを教師がもう一度問うようにしたり、児童同士の発言を自分の言葉で言い直させたりする。	資料から教師が読み取ってほしいことの視点をいくつか例に出してから、学習に取り組むようにしていく。新聞にまとめる時の重要な用語を見出し語として提示し、内容を焦点化させる。	- 朝のぐんぐんタイムや家庭学習で単位の変換のプリントを用意し定着をはかる。 - 自分の言葉で説明をする機会を多く作り、時間と時刻の定着を図る。 - ベーシックドリルを活用し、既習内容の基本的な学習の定着を図る。	観察の際に具体的な観察の観点を提示し観察するようにさせる。また、大事な用語は、教科書の単元のまとめページや教科書の音読を宿題に出すなど、何度も復習させ定着をはかるようにする。	みんながプレーしないと勝てないルールを作ったり、教え合う場を設定したりする。失敗した時こそ励ましの言葉をかけられるように繰り返し声かけをする。
		音楽	図工	特別の教科 道徳	外国語活動	
	現状の課題	表現することに興味・関心をもって、授業に取り組む児童が多いが、基礎的な力に個人差がある。	- 鑑賞する活動の経験が少ない。 - 新出道具の安全な使い方や、既習の身近な材料や用具の基本的な扱い方も確認する必要がある。	自分の考えを意欲的に伝えようとする児童が多いが、その一方で自分の考えを伝えることに消極的な児童もいる。友達の考えに共感したり違いを考えたりなどの相互間での深まりは少ない。	初めての外国語の学習に意欲と関心をもっている児童が多い。発音を注意深く聞くこと、繰り返し声に出してまねすることが課題である。	
	具体的な改善のための方策	一人一人の技能向上のために、興味がもてる工夫をして基礎的な技能を身に付けていくために、楽器奏法を段階的に進めていく。教材を精選し、実態応じた課題を取り組ませ、演奏することに喜びをもたせる。	- 身の回りの作品などを鑑賞する活動を意図的に取り入れ、面白さや楽しさを感じ取れるようにする。 - 安全指導を丁寧に行い、活動の中で創造的な技能を十分に扱えるようにする。	自分の考えをとなりに伝える、小グループに伝えるなど、自分の考えを発する時間をつくる。考えの深まりをもてるように発問を設定する。	1時間のうちに必ず全員が教員と1対1で英会話をする活動を入れている。「Listen」など、英語での短い指示語に反応できるようにする。	

教科指導の改善プラン（第4学年の具体的取組）

府中第四小学校

平成30年度

		国語	社会	算数	理科	体育
第四学年	現状の課題	・物語文・説明文では、答えが長文になってしまい、どこが大事なのかを押さえることに課題がある。 ・漢字テストでは、テスト予告をしているが、7割以下の児童もいる。	・社会で学習した世の中の課題から、自分ができることはどんなことかを考える力に課題がある。 ・グラフや表などの資料から読み取ったことを活用する力に課題がある。	・2けたでわるわり算についての理解が十分でない。 ・角度を正しく測ることができない。分かっている角度を用いて、計算で角度を求める力が弱い。 ・「計算の仕方を考えよう」の単元で、文章題から立式することが苦手な児童が多い。	・実験や観察において、予想を立てて考える力に課題がある。 ・実験や観察を意欲的に行う児童は多いが、それらの活動の意味理解が十分ではない。	・鬼遊びの際、友達との接触からけがをする場面が見られ、周囲の状況を感じながら、合わせて動く、逃げるという行動が苦手な児童が多い。 ・ボール運動では、ボール操作をする児童と怖がる児童と二極化している。 ・作戦を立ててゲームに取り組む力が身に付いていない。
	具体的な改善のための方策	・文を読み取り大事な言葉に着目し、見付けるような学習活動を工夫する。（サイドライン法など）中心となる語や文に注目して要点をまとめさせたり小見出しを付けたりするなどして内容を整理する力を習得させる。 ・継続して予告をする。それでもあまり振るわない児童は再テストなどを行い定着を図るようにする。	・課題意識を十分にもたせた社会科新聞作り活動を通して、考察をしっかりとさせていくようにする。 ・グラフや表の題名や数値に着目させ、気が付いたことを出させる活動を授業の中に取り入れていく。	・ベーシックドリルや復習プリントなどで、計算に取り組む時間を日常的に設定し、習熟を図る。 ・分度器を使った作業の機会を多く設定する。 ・立式とともに、どうしてそういう式になるのか、文や絵図、分けた式などを使って説明を書かせる。	・実験や観察で何に視点を当て、見て調べていくのか、絶えず振り返らせる。 ・毎時間の授業の中で課題を明確にし、何と何を比べてみていくのかを児童に分かりやすく示す。	・鬼遊び、ボール運動も周りの動きを見て、自分の動きを考えていくというつながりと意識の中でめあてをもって取り組んでいく。 ・作戦を立てるための動き方、練習方法を共有し、自己の振り返りを大切にする。 ・チームにとってナイスプレイを紹介し合い、支持的風土の中、個々の自信を育てていく。
		音楽	図工	特別の教科 道徳	外国語活動	
	現状の課題	・どんな曲想の楽曲も、柔軟に取り組む雰囲気がある。発表曲があると、全体的に積極的に取り組むことができる。反面、技能の差がある。	・意欲的に表現活動に取り組めるが、指示を聞いて用具の準備をしたり、次に何をすればいいか自分で考え活動することに課題がある。 ・発想構想の能力・技能とも、差が大きく、支援が必要な児童が比較的多い。	・登場人物の心情を考えて発言することはできるが、自己の振り返りの中で考えを深め、発表することは苦手である。 ・多面的、多角的に意見を交流する場面が少ない。	・学習意欲はあるが、児童の活動の理解に差がある。 ・発音に自信がもてず、発音練習時の声が小さい児童がいる。	
	具体的な改善のための方策	・反復練習を多くもち、自信をもって表現できるようにしたり、グループ発表で一人一人の役割をもつことを多くしたりして、技能向上を目指して工夫していく。	・板書を活用したりできたことを認め合いながら、自分でやるべきことを考える習慣をつけていく。 ・支援が必要な子には、個別に具体的な指示を出し、スムーズに取り組む始められるようにする。	・ペアやグループでの話し合いを取り入れ、自分と他者との違いや共通点を考える場を設ける。 ・比べて分ける見方で考え、話し合いを深められるように発問や問い返しの設定を工夫する。	・アルファベットや数字の読みなど、音楽やクイズなどを通して、どの児童も、楽しく学べるように指導の工夫をする。 ・何度も繰り返し練習したり、一人一人が発音をする時間を作ったりなど、少しずつ自信をもたせていく。	

教科指導の改善プラン（第5学年の具体的取組）

府中第四小学校

平成30年度

		国語	社会	算数	理科	体育
第五学年	現状の課題	- 文章を論理的に読み、学習課題に対し自分の考えをもつことに課題がある児童がいる。 - 読書が嫌いな児童がいる。 - 話を聞く力が弱い。話が長くなってしまうと、要点や話し手の主張をとらえることができない。 - 漢字が不得手な児童が多い。	- 社会に対する興味関心が低い児童がいる。 - 資料を正しく読みとる力が身に付いていない児童が見られる。	- 分数のたし算やひき算で、通分や約分をするなどの基礎的な計算力が身に付いていない児童がいる。 - 小数のわり算で小数点の動かし方や倍の考え方が理解できていない児童が多い。 - 文章問題に課題がある児童がいる。 - いろいろな単位に対する理解が十分でない。	科学的な思考が身に付いていない。実験方法や手順を論理的に考えることに課題がある児童がいる。	- 運動をすることに消極的な児童がいる。 - 作戦を立てて、ゲームに取り組む力に課題がある。 - 運動能力の個人差が大きい。
	具体的な改善のための方策	- 学習のめあてを明確にし、文章構成や筆者の考えの進め方に着目させたり、教材文とかかわる手がかりをもとに自分の考えを言語化させたりする。 - 担任がおすすめの本を紹介したり、学級文庫を充実させたりして、読書活動に常時取り組む。 - 日常の学習活動の中に話の内容や要点を確かめさせる活動ができる限り取り入れていく。 - 漢字練習の手順を身に付けさせて毎日取り組ませる。	- 新聞やテレビのニュースを適宜取り扱って、社会の出来事への興味や関心をもたせる。 - 資料の読み方をプリント等で指導し、授業で継続的に読み取る活動を取り入れる。	- 何を求める問題なのかを意識させ、計算の反復復習を行う。 - 数直線を書くことを習慣づけて、そこから立式することに慣れさせる。 - 既習内容の計算問題を行う。 - 単位換算のプリントを活用して常時音読したり、反復練習をしたりして、単位換算の意味の理解を深める。	- 実験方法や手順を考えるときに条件をそろえなくてはならない理由や方法をくり返し考えさせる。 - 手順は、自分でノートにまとめることにより、確実に理解させる。	- 動機づけを工夫し、スモールステップで課題に取り組ませる。 - ゲームにおける効果的な動き方を教えたり、考えさせたりして、作戦の有効さを感じさせる。 - 児童一人一人が自分の力に合っためあてをしっかりとち、スモールステップで達成していけるよう指導の工夫や場の設定を行う。
		音楽	図工	家庭	特別の教科 道徳	外国語
	現状の課題	課題に対して、素直にまじめに取り組む児童が多く、上達も早い。4年生の時に集中できない児童が数名いたが、落ち着いて取り組めるようになってきている。	学習規律を守り、活動意欲が高く、話し合い活動もよくできる児童が多い。一方で自分の思った通りにできなかったり、失敗したりすると意欲をなくしてしまうため、個別に支援が必要な児童が数名いる。	- 学習内容に対する興味・関心に、児童によって差がある。 - 簡単な調理や、手縫い、ミシン縫いの技能に差がある。	- 前向きに取り組む児童が多いが、道徳的価値への理解に課題がある児童がいる。 - 物事を多面的、多角的に考える力に課題がみられる。	- 意欲的に取り組む雰囲気があり、ALTとの会話を抵抗なく行う児童が多い。 - 習熟の差があり、英語での会話がおぼつかなかったり、アルファベットが読めない児童もいたりする。
	具体的な改善のための方策	連合音楽会や卒業式に向けて役割をもたせ、全員で共感できる喜びや充実感、達成感をもたせていくための工夫をする。	学級担任と連携・相談し、つまづきの原因や児童自身の思いを確かめながら、つくりだす喜びが味わえるようなその子に合わせた指導を行っていく。	- 実践カードなどを用いて、自分と家族などのかかわりを考えて、実践する喜びを味わわせる。 - グループ学習を用いて、互いに教え合うことで、互いの技能を高め合わせる。	- 児童の前向きな気持ちを大切に、道徳的価値への理解が深められるように、教材提示の方法(範読、BGMの活用、紙芝居、PCなど)や自我関与が深まるような発問を工夫する。 - 普段の生活場面から、物事は様々な面から見られることを取り上げ、児童が多面的、多角的に考える材料を与える。	- 英語での会話を苦手になっている児童には、個別に声を掛け、練習をさせて自信をもたせる。 - アルファベットへの理解を深めるため、カルタなどゲームを取り入れ、楽しみながら覚えさせる。

教科指導の改善プラン（第6学年の具体的取組）		府中第四小学校		平成30年度		
		国語	社会	算数	理科	体育
第六学年	現状の課題	・言語についての知識・理解・技能においては、漢字の書き取りに課題がある。定期的に実施している漢字小テストでは、高い習得率が見られるが、学習した漢字を作文中で適切に使用したり、正確に音読したりすることは苦手な児童が多い。また、文章中の言語の種類（主語・述語・修飾語）を判別することにも課題が見られる。 ・読む能力においては、説明文の内容を読み取り、必要な情報を正確に取り出すことに課題がある。物語文でも同様に読んで概要を捉えたり、登場人物の心情を読み取ったり、要旨を読みとることに課題がある。	・社会（歴史）に対する興味関心をもてない児童が多く、史実のつながりを考えて学習しようという意識が低い。そのため、学習内容の定着率に課題が見られる。 ・教科書や資料集から関連のある言葉を探し出したり、調べたりする活動には意欲的に取り組む様子が見られるが、複数の資料を関連づけて考察したり、各自が興味をもって調べ学習を進めていくには課題がある。	・割合を使った問題が理解できない児童が多い傾向にある。 ・分速・時速・秒速への単位換算が苦手な場面が見られる。 ・分数のたし算やひき算で、通分や約分をするなどの基礎的な計算力が身に付いていない児童が多い。 ・小数のわり算で小数点の動かし方や倍の考え方が理解できていない児童が多い。 ・文章問題が苦手である。 ・いろいろな単位に対する理解が十分でない。	・観察実験の技能においては、基礎的な実験方法や適切な実験器具の使い方が十分に身に付いていない傾向がある。 ・理科的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得率に大きな差がある。 ・実験の結果から必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて読み取ったりすることはそこそこできる。しかし、実験結果から考察、推論することには課題がある。	・運動が好きで意欲的に取り組む児童が多いが、一方で準備に遅れたり、気分が乗らないと見学をしたりして消極的になっている児童もいる。 ・社会体育での経験などから、運動の能力差も大きく見られる。 ・マット運動など器械体操領域における非日常的な動きにおける運動能力に課題がある。
	具体的な改善のための方策	・作文の中で漢字を活用できるように、日常の日記指導や作文指導の中で繰り返し指導していく。また、あわせて主語、述語、修飾語など言語の種類についても繰り返し指導し、文章を分かりやすく詳しく書く指導を充実させる。 ・物語文、説明文の指導において、内容理解に偏重するのではなく、文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導していく。そのために、指導計画を立てるときには、各単元、1単位時間のねらいを焦点化していく。	・知識や技能的なことは繰り返し学習していかないと定着しない傾向がある。授業導入では前時の振り返りを行い、史実のつながりを理解し、興味関心を上げながら意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・授業の中で、一つの資料から読み取っていただけではなく、関連のある複数の資料を提示し、そこから比較・関連付けて考察していく学習場面を設けていく。また、少人数や全体で検討し共有していく活動も重視していく。 ・ICT機器を活用し、本単元に関わりのある写真や動画、資料を提示することで学習意欲を高めたり、実感をもって学習を進められるようにする。	・何を求める問題なのかを意識させ、計算の反復練習を行う。 ・数直線を書くことを習慣づけて、そこから立式することに慣れさせる。 ・既習内容の計算問題を行う。 ・単位換算のプリントを活用して常時音読したり、反復練習をしたりする。 ・図形の求積や速さの問題を解くための見通しをもたせることが肝要である。	・観察・実験においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について共通理解する時間を確保する。また、実験結果から必要な情報を取り出した上で、そこから何が分かるのかという考察する活動をより充実させていく。（例：自分の考えをまとめる時間の確保、小集団での協働学習、全体での共有化など） ・電気、磁石など、生活の中で身近ではあるが、あまり意識して活用する機会が少ないものに対する知識・理解の習得率が低いので、さまざまな単元の中で復習的に扱うことができるようスパイラルに学習計画を立てていく。	・休み時間や特別活動の時間に体を動かす遊びなどを取り入れるようにする。 ・授業の中で、主運動に入る前に慣れの運動の時間を取り入れ、運動の特性に触れながら運動に親しませる授業を展開する。 ・仲間と共に、運動に親しむ風土作りを継続し、運動が苦手な児童も運動が好きになるように、得点が誰でも入るようなルールの工夫や、技を細分化し、スモールステップ型で動きや技を学ばせる授業作りで、少しでも児童ができた喜びを味わうような授業を作る。
			音楽	図工	家庭	特別の教科 道徳
	現状の課題	・全体的に意欲的に活動する学年だが、少し落ち着かなくなっている。 ・技能的な力の差が大きく、全体指導での反応の差が大きい。	・意欲的に活動する一方で、生活から来る気分の不安定さから、活動に集中できない児童がいる。また、課題を達成する意識が低く、進度に差が出る。 ・発想構想の能力と技能について、差が大きい。	・調理実習では、今まで身に付けた技能や知識を生かし、炒める調理を楽しく実践できた。一方で、生活経験の差から、技能面での個人差が大きく、学習の進度に差が生じてしまうことがある。また、発展として、学習したことを家庭で実践させたいと考えるが、時間的な面でなかなか難しい。 ・理想的な朝食のメニューを考えた際、栄養素についての知識が曖昧で、栄養バランスを考えることができない児童が見られた。	・自分の考えに固執し、互いの立場から多面的に考えを深めていくことに課題が見られる。 ・価値の一般化や自覚化の場面になると、消極的になってしまったり、単一的な価値のまとめになってしまったりするなど、自己の生き方を深く考えていくことに課題がある。	・コミュニケーションに用いる会話文を中心に指導しているが、様々な単語、センテンスを理解している児童もいれば、アルファベットの理解をままならない児童がいるなど英語の習熟度に差があり、その差が学習意欲の低下にもつながっている。 ・ALTを活用して授業を構成することに課題がある。
	具体的な改善のための方策	・目的意識を持たせ、集中して学習できるように、個々に支援していく。 ・グループアンサンブルやグループ合唱をして、個々の課題や力量に合った内容で発表しあい、卒業に向けて、合唱、合奏の意識を高く持たせていく。	・他の教科と関連させるなど、興味関心の高まるような題材設定を行う。 ・スモールステップを作り、発想・構想をしやすくするとともに、学級担任と連携相談したり声掛けを子なったりして、作る喜びが味わえるように支援していく。	・互いに作品・活動を評価し合ったり、家庭生活についてグループごとに調べたことを発表し合ったりして、主体的・協働的な学習となるような授業を行っていく。 ・給食センターからゲストティーチャーを招くなど、栄養素について今までとちがった角度で学習できる機会を設定し、栄養についての興味をもたせていく。	・自分の考えをまとめる時間や書く時間を十分に確保することで、自分自身を振り返り見つめ直すことができるようにする。 ・話し合いの場面では、ペア・小グループによるグループ活動を取り入れたりと、意思表示をする教具などを活用したりして、一つの課題に対して多面的・多角的に話し合いができるように工夫していく。	・ALTと担任が連携し、英語の理解が難しい児童を支援していく。 ・単語や会話の習得に力を入れ、アルファベット文字指導もフォニックスを活用して行っていく。 ・授業後にふり返りを行い、児童の実態を把握し、指導に生かしていく。

各調査（アンケート・学力テストなど）結果からの全体的課題

府中第四小学校 平成30年度

課題 手立て	・学力調査の正当率の表から、国語においては、話す・聞く能力と言語についての知識・理解・技能に課題が見えた。社会、理科、算数においては、思考力に課題が見られる。特に、複数の資料を比較し、関連付けて考察することを苦手とする児童が目立つ。 ・児童質問紙からは、「算数・国語が好きである」「算数・国語の授業の内容がよく分かる」という質問に対し、「好き・分かる」と答えた児童が都の平均と比べて10％以上低い。授業内容が理解できないから好きではない、学習意欲がもてないということが大きな課題である。また、「友達の前で自分の考えを発表することが得意である」「友達の考えを受け止めて、自分の考えをもつことができる」という質問に対しても「当てはまる」と答えた児童は東京都の平均より15％以上低い。授業の中で自分の考えをもって発信したり、友達の考えを聞いて自分の考えを深めたりする学習経験が不足していることが課題と捉えた。
	・本校は前年度まで4年間、「授業のユニバーサルデザイン」をテーマとして研究を進めてきた。授業のねらいを焦点化して、学習内容や学習活動を精選することですべての児童が学習に意欲的に参加できるようにすること、視覚化することで学習内容の理解を促すこと、共有化することで他者の意見を尊重する態度を養い、さらに学習内容の理解を深めることを全ての教科で意識し、授業作りをしていく。 ・道徳の授業時間を学年で統一し、同じ価値項目でアクティブラーニングを視点とした授業作りに取り組んでいくことで、児童の豊かな心も育んでいく。 ・意識調査の内容については、学校便り等で保護者にも公表し、家庭と学校が連携して子供を育てていく意識を作る。

学力向上を図るための調査結果からの課題など

		国語	社会	算数	理科
学力向上を図るための調査から	課題	・言語についての知識・理解・技能においては、漢字の書き取りに課題がある。定期的に実施している漢字小テストでは、高い習得率が見られるが、学習した漢字を作文中で適切に使用できる児童は少ない。また、文章中の言語の種類（主語・述語・修飾語）を判別することにも大きな課題が見られた。 ・読む能力においては、説明文の内容を読み取り、必要な情報を正確に取り出すことに課題がある。物語文でも同様に読んで概要を捉えたり、登場人物の心情を読み取ったり、要旨を読みとることに課題がある。	・地図上から必要な情報を読み取ることに課題がある。特に一つの地点から各場所がどの方位にあるのかが読み取れていない。また、都道府県の名称や位置など基礎的な知識・理解が定着していない。 ・一つ一つの資料から情報を読み取ることはできるが、複数の資料を比較し関連付けて考察し、そこから分かることを読み取ったり、考えたりすることに課題が見られた。	・整数、小数、分数の四則計算の習得率が低い。特に、小数、分数の数構成に対する理解や計算の技能に課題が見られた。また、計算のきまりを使って、工夫して計算する力や図形の特徴を理解する力などに焦点において指導することも重要な課題ととらえる。 ・文章問題からの立式、表から数量関係を読み取り、式化する、問題や表から類推して思考していくことなどに課題がある。全体的に数学的な考え方が身に付いていない。よって知識や技能を活用する力にも課題が大きい。	・観察実験の技能においては、基礎的な実験方法や器具の使い方が身に付いていない傾向がある。実験については、とても意欲的な児童が多いので、体験的な活動を通して、見開き1ページでの全学年統一のノート指導を徹底していく。 ・理科的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得率に大きな差がある。 ・実験の結果から必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて読み取ったりすることはそこそこできる。しかし、実験結果から考察、推論することには課題がある。
	手立て	・児童の傾向として、漢字テストなどでは漢字の習得率が高いが、作文の中で漢字を使用したり、正確に音読したりすることは苦手な児童が多い。作文の中で漢字を活用できるように、日常の日記指導や作文指導の中でなどで繰り返し指導していく。また、あわせて主語、述語、修飾語など言語の種類についても繰り返し指導し、文章を分かりやすく詳しく書く方法を指導していく。 ・物語文、説明文の指導において、内容理解に偏重するのではなく、文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導していく。そのために、指導計画を立てるときには、各単元、1単位時間のねらいを焦点化していく。	・授業の中や、朝の時間等で東京ベーシックドリルを活用し、基礎的な地図記号や方位について押さえる。また、知識や技能的なことは繰り返し学習していかないと定着しない傾向がある。その単元でだけ学習するのではなく、さまざまな単元や他教科とも連携して、スパイラルに学習できるよう指導計画を立てる。 ・授業の中で、一つの資料から読み取っていくだけではなく、関連のある複数の資料を提示し、そこから比較・関連付けて考察していく学習場面を設けていく。また、少人数や全体で検討し共有していく活動も重視していく。	・全学年統一のノート指導を行い、めあてを書いて、授業の終わりには必ず、ふり返りをかかせることを徹底する。 ・東京ベーシックドリルを朝の時間で計画的に取り組ませ、基本的な計算力を伸ばしていく。また、授業時間だけではなく家庭学習などと連携して繰り返し練習し、定着を図る。 ・授業においては、問題解決型の授業を主体として、課題に対し演繹的、類推的、帰納的に考え、全体で共有していけるようにしていく。 ・各単元の中で、身に付けた知識や技能を活用する問題を解く場面を設定し、活用する力の向上を図る。	・観察・実験においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について共通理解する時間を確保する。また、実験結果から必要な情報を取り出した上で、そこから何が分かるのかという考察する活動をより充実させていく。（例：自分の考えをまとめる時間の確保、小集団での協働学習、全体での共有化など） ・電気、磁石など、生活の中で身近ではあるが、あまり意識して活用する機会が少ないものに対する知識・理解の習得率が低いので、さまざまな単元の中で復習的に扱うことができるようスパイラルに学習計画を立てていく。